

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 IUCr分科会

更新日 2010/3/15

(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際結晶学連合

(欧文) International Union of Crystallography

(略称) IUCr

日本学術会議加入年(西暦) 1951 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Sine Larsen		Peter Colman	Michael Dacombe
(国)	Denmark		Australia	UK

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

3年に一度開かれる総会において会長、副会長、庶務・会計幹事と半数の理事が加盟国代議員の投票で過半数の票で決められる。任期は3年。役員の候補者は立候補制で、加盟国から推薦されて3か月前に加盟各国に知らされるが、6名以上の代議員の推薦があれば、投票日4日前でも受け付けられる。

加入国・地域の数 50ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

アメリカ、イギリス、ロシア、フランス、ドイツ、中国、日本、インド、カナダ、オーストラリア

国際学術団体のホームページURL

<http://www.iucr.org/>

国際学術団体の年間運営経費

CHF 4,999,783

日本の分担予定額[事務局で記入]

900千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

### 総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2008	第21回総会と大会	大阪	2650	950	共催
2005	第20回総会と大会	フローレンス	2800	350	無
2002	第19回総会と大会	ジュネーブ	1950	250	無
1999	第18回総会と大会	グラスゴー	2620	200	無
1996	第17回総会と大会	シアトル	2311	200	無

### 運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2009	2009年度理事会	トロント	10	大橋裕二	1
2008	第21回総会	大阪	50	佐々木 聡	4
2008	2008年度理事会	大阪	10	大橋裕二	1
2007	2007年度理事会	ソルトレークシティ	10	大橋裕二	1
2006	2006年度理事会	ルーベン	10	大橋裕二	1

### 出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

Acta Crystallographica A: 2か月定期: Acta Crystallographica B: 2か月定期:  
 Acta Crystallographica C: 毎月定期: Acta Crystallographica D: 毎月定期: Acta  
 Crystallographica E: 毎月定期: Acta Crystallographica F: 毎月定期: Journal of  
 Applied Crystallography: 毎月定期: Journal of Synchrotron Radiation: 2か月定期:  
 IUCr News Letter: 年4回定期

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;"><b>国際機関等の提唱で行った活動</b></p> <p>IUCrは国際科学会議(ICSU)の29のユニオンのうちの1つであり、これまでICSUの中で積極的な役割を果たしてきた。とくにデータベースの構築、科学情報の収集・蓄積では指導的な役割を果たしてきた。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際機関等への提言等</b></p> <p>特筆すべき提言としては、科学技術情報の国際機構(ICSTI)に協力して、雑誌や科学データの電子化がいかに関後の科学の発展に重要であるかを提言してきた。そして全世界の科学者や研究機関にアンケートを行って調査報告した。その調査は審査委員付きの雑誌、不定期の出版物、報告済み・未報告のデータ、個人的な出版記録などである。</p>
<p style="text-align: center;"><b>国際事業等への参加・実施等</b></p> <p>科学情報に関するICSU分科会(CODATA)で指導的役割を果たしている(委員長と小分科会の委員長を派遣している)。その他IUCrがメンバーになっている国際組織は国際純粋・応用生物物理学連合(IUPUB)、宇宙空間研究委員会(COSPAR)、IUPAC命名法分科会(ICTNS)、回折データ国際センター(ICDD)、国際結晶成長機構(IOCG)などがあり、その活動を支援している。</p>
<p style="text-align: center;"><b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b></p> <p>全世界的に科学データや情報の収集・蓄積に寄与しているが、その他に結晶学をはじめとする基礎教育の普及に力を入れている。結晶学の地域連合としては、アメリカ結晶学会、アジア結晶学会、ヨーロッパ結晶学会があるが、それらの地域連合と協力して基礎教育の普及に努めている。なおこれらの地域連合はIUCrと協力して毎年研究集会を開いている。</p>
<p style="text-align: center;"><b>発展途上国への対応</b></p> <p>IUCrは結晶学に関して世界各地で開かれる国際会議やセミナーに発展途上国の若手研究者の派遣に積極的にサポートしてきた。このためにExecutive Committeeの下に専門的なSub-Committeeを設置して、毎年総額USD120,000の援助を行っている。また発展途上国で開かれる各種のスクールには著名な講師を数名IUCrの資金で派遣する制度(Professorship)も設けており、年間数件のスクールに派遣している。</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>結晶学は物質に関する基礎的な学問であるため、ナノサイエンスやバイオテクノロジーなどの応用分野の科学技術の発展に大きな影響を与えている。とくに半導体、電池、薄膜、超伝導物質、磁性材料、光記録材料などの技術開発や、創薬や生体機能物質の技術開発には不可欠の新知識の発見に寄与している。今後は環境問題を解決する物質の開発でも貢献できるであろう。</p>
---

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
前会長・理事	大橋裕二	2008	2011
放射光分科会・委員長	若槻荘市	2008	2011
会長	大橋裕二	2005	2008
理事	大橋裕二	2002	2005
副会長・理事	田中通義	1999	2002

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUCr分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本結晶学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本結晶学会	1200	<a href="http://crsj.jp">http://crsj.jp</a>
日本放射光学会	1000	<a href="http://www.jsrr.jp">http://www.jsrr.jp</a>
日本中性子科学会	533	<a href="http://www.jsns.net">http://www.jsns.net</a>
日本鉱物科学会	1000	<a href="http://wwwsoc.nii.ac.jp">http://wwwsoc.nii.ac.jp</a>
応用物理学会	24000	<a href="http://www.jsap.or.jp">http://www.jsap.or.jp</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IUCr分科会  
 所属分野別委員会 化学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
栗原和枝	高原 淳	甲斐 泰	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
1	2	4

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

(1) IUCrのNational Committee。(2) IUCrの役員を推薦すること。(3) 総会の議案を検討し、必要があれば議案を提出すること。(4) IUCrが行う日本国内での活動に対して関係深い国内学会と協力してサポートすること。(5) 日本学術会議の海外派遣業務に協力して、IUCrと深い関係のある国際学会に代表派遣を推薦すること。

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2009/12/28	大橋委員のIUCr理事会出席を代表派遣に推薦した。また、(1)日本の展望へのIUCrからの寄稿内容、(2)IUCr理事の日本から推薦、(3)第22回IUCr総会のプログラム編成、(4)関連の学術誌への日本の寄与について議論した。
2008/12/22	委員長に栗原和枝会員、副委員長に高原淳委員を選出した。特任連携会員として、甲斐泰氏ら4氏を推薦した。大橋委員のIUCr理事会出席を推薦し、メール審議で甲斐泰委員を幹事を選出した。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IUCrはIUCr New Letterを年4回発行しており、その雑誌は日本結晶学会の会員に配布する日本結晶学会誌と一緒に全会員に配布されている。またIUCrのウェブサイトは広く知られており、IUCrの活動が細かく掲載されている。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

IUCrの活動状況は年4回発行されるIUCr News Letterで国内の日本結晶学会に知られており、また日本結晶学会の主要なイベントはIUCr News Letterに掲載されて、全世界の結晶研究者に知られている。日本結晶学会の会員は関連学協会で主要な役員に選ばれているので、その役員を通じて関連学協会との連携が図られている。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

委員の広がりがないことを指摘されたので、今回の分科会委員は関連学協会をほぼ網羅するように選ばれている。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

現在、大橋委員がIUCrの前会長としてExecutive Committee(理事会)の委員として参加しているので、国際団体の活動状況も、国内の学協会との連携も充分行われている。また昨年IUCrの総会と大会を大阪で開催したことから、国内外での我が国の活動は評価されている。